

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 100 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 100 回 : 2020 年 1 月 15 日 (水) 13:30~16:30

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 734 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 増子 (石田委員代理), 二木, 佐藤 (輝),
池田, 黒岩, 塩田, 小森 (10 名)

(常時参加者) 友澤, 藤崎, 佐竹, 佐藤 (遼) (4 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-100-1 第 99 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-100-2 講習会開催案内

P4SC-100-3-1 内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 基準案

P4SC-100-3-2 内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 指針案

P4SC-100-3-3 内的事象 L1PRA 標準 統合性能化 適用事例候補

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 10 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 99 回議事録の確認

資料 P4SC-100-1 を用いて第 99 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡い
ただくこととし, 特になければそのまま正式版とすることとなった。

(3) 講習会について

資料 P4SC-100-2 により, 出力時と停止時を合わせた今年度の講習会の進め方を確認した。
開催について分科会関係者にもお知らせし, 講習者を募集していくこととなった。

(4) L1PRA 標準統合性能化

資料 P4SC-100-3-1 から 3-3 により, L1PRA 標準統合性能化案について検討した。主な議
論は次のとおり。

- ・全般事項

- －指針箇条 5 に仮置きしている評価の流れや技術レポートの位置づけに関しては、扱いを次回以降に検討していく。また、パラメータ標準の参照のあり方についても引用のあり方など関連事項も懸案して再確認していく。

- －起因事象の除外・炉心損傷の判断基準・使命時間（24 時間）に関する規定のあり方は継続して検討する。有効性評価における使命時間の扱い例については、BWR に加えて PWR についても可能な範囲で調査してみる。

- －特に基準における ET, FT の扱いに関して、現場で参照するのは指針主体になると考えられるため、基準ではそのベースを規定するなどが考えられること、将来のエンドースを考えた場合には、個別の手法に限定しない方が適切と考えられるなどの意見があり、基準の規定振りから ET, FT に限定される場所を見直した試案を作り、次回以降に扱いを検討する。なお、少なくとも指針においては現状のとおり ET, FT を念頭に置いた規定振りとする。

- ・指針 8.2 の使命時間では、設定された時間以降のリスク寄与が小さくなるような使命時間とする旨の要求に修文する。

- ・指針 11.1 の起因事象を誘発する人的過誤では、起因事象で同定された人的過誤を対象とすることを明確にして、指針の内容を検討する。

- ・基準 12.2.2 一般パラメータの収集では、着目した POS に対してデータを収集・整理する旨の規定振りに修正する。

- ・基準 13.1 事故シーケンスの定量化の高次要求では、不確実さを含めた定量化として規定する。

- ・基準 13.2.1 での検証された計算コードの使用やモデルの確認において、指針に移設すべき内容を確認する。

- ・基準 13.2.3 の感度解析では、規定出だしの「重要度解析等を参考にして」を削除する。

- ・基準 13.2.5 及び指針 13.5 の定量化結果の検証において、結果のレビューに関する規定振りを再整理する。

(5) スケジュール, その他

次回分科会は 2 月 19 日 PM の予定とする。また、次々回は 3 月 12 日 PM を候補とする。

以上